

とおかまち

Public Relations

市報



11/10 2013

平成25年 11月10日号

No.207



特集

ムラを残す

一縁をつなぐ力持ち、地域おこし協力隊一

主な内容

ピックアップニュース

- 18 ●十日町市古文書整理ボランティア
- 19 ●小中一貫教育③
- 20 ●水道事業のお知らせ

連載コーナー①

- 21 昭和のとおかまち／元気予報

タウンピックアップ

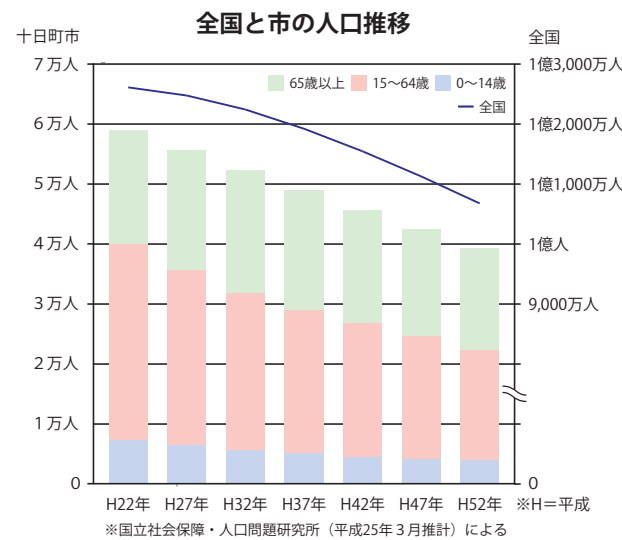
連載コーナー②

- 24 キラメキワーカーズ

お知らせ・ガイド

連載コーナー③

- 25 熱中・夢中／和顔愛語／イクメンカジダン
- 30 熱中・夢中／和顔愛語／イクメンカジダン
- 32 ジュニア芸術祭



日本の人口は、1億2、808万人を記録した平成20年をピークに減少に転じています（総務省発表による）。平成52年には、1億728万人、ピーク時の約84%の人口になると推測されています。

日本全体の人口が減少傾向にある中、十日町市は、さらに厳しい状況にあります。市の人口は、9月末時

現状

高齢化の進行がもたらす集落機能の維持への不安

私たちはどのような状況におかれているのでしょうか。データと、中山間地の集落に住んでいる人の声をお伝えします。

点で約5万8千人ですが、平成52年には現在より3分の1ほどの減少し、約3万9千人まで落ち込むと推計され、割合を見ると、65歳以上の人口は、現在は全体の3割強ですが、平成52年には4割を超えるとされています。

また、集落の年齢構成に着目すると、一般的には55歳以上の人たちが集落内の全人口の5割を超えると高齢化集落、65歳以上が5割を超えると高齢化集落と呼びます。平成25年3月現在で、市内の準高齢化集落（行政区）は85集落、高齢化集落（行政区）は54集落存在します。この数は、少子化も相まって、今後も増え続けることが予想されます。

高齢化が進行すると、道普請やせき普請などの保全活動、祭りなどの行事の運営など、集落機能の維持にさまざまな課題が生じます。この課題は、安心な暮らしの根幹を揺るがすことになりかねません。

土地が荒れることが心配で、なんとも寂しい

三ツ山集落は、昔は33戸ありました。その頃は行事もたくさんあり、祭りに浪曲師や赤倉神楽を呼ばって、盛り上がったこともありました。新座小学校の分校もあり、外に出れば誰かしらと会う、挨拶をする、普段の生活の中に活気がありました。今は6戸となり、年寄りだけの家は5戸です。集落を貫く通りを「銀座通り」と呼んでいたこともありましたが、今では家がポツンポツンとあるだけです。

私自身、何とか続けてきた田んぼも、体を悪くして去年から作付けを減らしました。昔から守ってきた土地が、担い手もなく荒れてしまうだけになることが心配で、なんとも寂しいですね。人間貧乏、人がいなくて次の世代につなげられないことが集落にとって一番良くないもんだね。

大津重信さん（三ツ山・80歳）

Interview

ムラを残す

「縁をつなぐ力持ち、地域おこし協力隊」

「自然と共に生きながら、農に勤しむ。先代から受け継がれてきた土地を守り、次の世代につなぐ」。これは、市内の中山間地（※）にある「ムラ」と呼ばれる集落では、当たり前だった時代の流れでした。今、この流れに変化が訪れ、このままでは近い将来に存続が危ぶまれる集落も出てきました。

時代の変化に伴う集落の未来を危惧し、「地域おこし協力隊」と共に集落の存続に取り組んでいる皆さんがいます。本号では、高齢化集落と地域おこし協力隊の活動をお伝えします。

※中山間地とは
平野の外縁部から山間地で、主として傾斜地や山林の多い地域を指します。こうした地域での農業・農村が持つ水源かん養、洪水・地すべりの防止、自然環境保全などの多面的機能が、下流域の都市住民を含む多くの国民の財産、豊かな暮らしを守っています（農林水産省ホームページより引用）

※荷台には荷物の監視員として乗車しています

他にも生活に関わる環境の整備に重点を置き、さまざまな支援をしています。一方、集落を維持するには、いわゆる「地域力」、マンパワーが必要です。そのこ

とから地域内の共助を担ってもらえる集落安心づくり事業や、地域自治組織の自主・自立に向けた活動を支援するなど、豪雪地にある中山間地の集落であっても、安心して暮らすことができるまちづくりに取り組んでいます。

地域おこし協力隊という風を取り込んで、集落の持続を地域おこし協力隊の導入もその一環です。よそ者・若者の発想で集落に新しい風を吹き込む力が必要な地域と、そこで生活することで自分の存在価値を見出そうとしている人たちがうまくマッチすると考え、いち早く、積極的に導入しました。

もし、集落の皆さまが「なんとかしたい」という思いをお持ちなら、『協力隊員を受け入れる』ことに、一歩踏み出していただきたいです。そして受け入れ後は、志はあるが地域で生きる術を知らない協力隊員を、我が子だと思つて可愛がってください。特別な思いを持つてくれる協力隊との、一

十日町市長 関口 芳史



大地の芸術祭
作品制作や人との出会いを通して、里山の高齢者の元気づくりに取り組んでいます。



予約型乗り合いタクシー運行
44集落を対象に8路線で運行。これにより、市内の交通空白地は解消されました。



集落安心づくり事業
地域ぐるみの支え合い支援しています。

そのほかの高齢化集落対策支援

中越大震災は、中山間地の高齢化集落が持つ課題の顕在化と、新たな気づきをもたらしました。

そこにしかないもの、自分の役割を持って生きていける場所がある。誇りを持ってほしい

中越大震災で顕在化した課題と価値の再認識

平成16年の中越大震災が与えた一番の大きな被害は、過疎・高齢化を早めたことでしょう。十日町市を含む中越の中山間地にある集落では、平均で人口の約4割が減少し、ある本によると、過疎・高齢化が15年は早まったとされています。徐々に訪れる課題が、突然目の前に突きつけられ、中山間地の継続性が疑問視されました。したがって、復興計画やビジョンにも、震災からの復興として「中山間地の持続可能性の獲得」が盛り込まれました。

個人的には中山間地の集落において、過疎・高齢化が全て悪いとは思っていません。そもそも日本全体の人口が減少している中で、全体よりも早いか遅いかの違いだけだと考えています。むしろ本質的な課題は、それに向き合っていない地域社会だと思っています。

安穩としていた大きな時代の流れが、震災によって突然変化し、継続の危機が顕在化しました。このことから、復興は、早まった過疎・高齢化の現状をそこに住んでいる皆さん自身が「我が事」と捉えることができるかが大きなポイントでした。

一方で、復興に当たっては、さまざまな支援がありました。外部の支援者は、支援という交流の中で、集落の良さ・たくましさを感じてくれた。価値を再認識するきっかけを与えてくれました。それに震災からの復興施策と「ムラを残したい」という地域住民の思いが相混じって、中山間地が元気になる新しい取組みが生まれまし

「豊か」といえる中山間地の良さは、人がその土地で生活を営むことで、自然・食べ物・伝統文化などの良さを生み出します。何よりも魅力的なことはそこに暮らす人々の生き様や生きる姿です。多くの中山間地は、これらをまだ持ち合わせています。一方で、都会で働いていて、経済に対するリスクを感じていたり、大きなシステムのたつた一つの歯車である自分の存在に疑問を感じていたりする人たちがいます。人と人との心が近い距離感、自分に何かしらの役割があるという実感の中で生きたいと思っています。そういう人たちから見れば、中山間地は間違いなく「豊か」で魅力的です。また、そう思っている人たちの受け皿になることができます。だから、もっと自分たちの住んでいる集落、自分たちの生活の豊かさに自信や誇りを持ってほしいです。このことが魅力や誇りを輝かせ、共感してくれる人々を引き寄せ、新しい経済の価値を生み出します。

稲垣 文彦さん

中越防災安全推進機構復興デザインセンター長

平成16年の中越大震災直後から旧山古志村（現長岡市）の災害救援ボランティア活動に関わる。翌年5月に地域復興のための中間支援組織「中越復興市民会議」を設立し事務局長に就任、現代表。復興デザインセンターでは、復興に関わる人材を育成し、復興と災害に強い地域づくりを進めている。



地域おこし協力隊と 新たな価値の創造を

中山間地の魅力が再認識されつつあるものの、そこでの過疎・高齢化はますます進行しています。このことと稲垣さん（4ページ写真）は「地域の伝統や良さが引き継がれていますが、一方で変わらなかつたという側面もあります。変わらないことでの過疎もあると思います」と分析します。続けて、「中山間地の良さの中で、社会を変えたいと目指す人たちが積極的に地方に移住し、活動しています。『地域おこし協力隊』もまさに、そういった志と行動力を持つている人たちです。その皆さんが、中山間地に身を置くことで、新たな価値を見出していくでしょう」と、地域おこし協力隊の活動に期待を込めます。

地域おこし協力隊とは？

著しい人口減少・高齢化の進行に伴い、さまざまな課題を抱える集落を支援するため、地方自治体が都市部の意欲ある人材を受け入れ、集落機能の維持・強化を図る取組みです。平成21年度から総務省の事業として実施され、平成24年度時点で隊員数は、全国207の自治体で、617人を数えます。活動期間は概ね1年以上、最長3年であり、その間、財政措置として隊員1人につき最大400万円の特別交付税が交付されます。

市は、高齢化集落支援の一環として導入しました。隊員からは、移住・定住を視野に入れ住民と共に汗を流しながら「地域協力活動」に従事し、地域の活性化に取り組んでもらいます。現役隊員も含めこれまで33人の地域おこし協力隊を受け入れてきました。退任した15人のうち9人が、家族13人と共に市内に定住しています。



イラスト：地域おこし協力隊 仲井梨恵さん

【市内4地域の地域おこし協力隊配置状況】

十日町地域 ● 飛渡地区 3人、水沢地区 2人、吉田地区 1人、東下組地区 1人	計18人 (平成25年10月現在)
中里地域 ● 清津峡地区 1人、倉俣地区 2人	
松代地域 ● 中部地区 1人、山平地区 1人、奴奈川地区 1人、峰方地区 1人	
松之山地域 ● 三省地区 1人、布川地区 2人、浦田地区 1人	

皆さんの思いを形にするために 私たちも一緒に汗を流します



十日町市の協力隊は、横のつながりを持ち、情報交換などをしながら、切磋琢磨しています。プライベートでもバンドを組んで地域イベントを盛り上げています。

地域おこし協力隊は、集落を活動の場としてどのような取組みに挑戦しているのでしょうか。次ページから「生活に寄り添う」にぎわいをつくる「生業を生む」という3つの視点から、地域の思いの実現に向け、日々奮闘する隊員の活動を紹介します。

支²援 にぎわいをつくる



松之山地域の布川地区では、米澤健一さん（東川・34歳、写真①右）小野彩さん（中野・45歳、写真④左）の2人が活動しています。活動の一つとして、平成23年から地区の皆さんが気軽に集える場を目指して「布川カフェ」を始めました。

布川カフェ



作り出したにぎわいを一つでも継続してもらえたら。— 米澤さん

この他にも婦人会活動や盆踊りなどを復活して、昔のにぎわいが少しずつ戻ってきています。「任期の中で、にぎわいをつくり、小野さんや次の協力隊に引き継ぎたい。例えば、協力隊がいなくなっても、皆さんの心に響いたものの中から一つでも継続してもら



①コーヒー教室の様子。②復活した盆踊りでは、地域の皆さんが浴衣を着て華やかな場に。③山菜料理勉強会をする下布川地区おんなしよの会。④布川地区協議会長の樋口次さん（中）と米澤さん・小野さん。共ににぎわいづくりを進めます。



えたらと思っています」と、米澤さんはにぎわいの継続を意気込みます。

支¹援

生活に寄り添う

見守り

森山克弘さん（湯山・50歳、写真①右）は、松之山地域の三省地区の地域おこし協力隊となり、10月で2年が経ちました。地区での業務は高



齢者の見守りがメインです。高齢者世帯を訪れては、さりげない会話をして「今日も元気だな」と、その人の様子を確認します。

10月中旬、大荒戸集落で一人暮らしをする相田ナヲさん（83歳、写真①左）のお宅を訪問しました。相田さんは、夫を亡

息子みたいな存在。ありがたいです。— 相田さん

くして約20年が経ちます。この間、一人で生活を切り盛りしてきました。「毎日、近所のお母さんたちとお茶飲みしているから寂しくはないよ」と笑顔で話します。そのお茶飲み仲間の一人が森山さんです。「お茶を飲みながらいろんなことを話している。いろいろ助けてもらっているし、いつも心配してくれてありがたい。息子より息子みたいなもん」と、森山さんの存在に感謝します。

大荒戸集落は昭和20年前後には80戸弱あった家も、今では14

①笑顔で話す相田さんと森山さん。②森山さんが「生きる上での先生」と仰ぐ地域の人々とお茶飲みでは、郷土料理が卓上に並びます。③傾斜地にある大荒戸集落。

戸。ほとんどが高齢者の世帯で、共同作業も大変になりました。「10年後はどうなるんだろうねえ」と相田さんは近い将来に不安を募らせます。そんな中山間地の高齢者の生活に寄り添う森山さんは、「若い人がいなくて、何か生み出すことが難しい集落がほとんどです。任期が終わる前に、何か一つでも元氣が出るきっかけづくりができればと思っています」と、あと1年とたった協力隊としての活動に思いを巡らせます。





支3援

生業を生む

松代おやつこ村

角田和樹さん(会沢・39歳、写真①左)は、今年の4月から松代地域の中部地区に地域おこし協力隊として着任しました。

地区内には、太平洋集落を取り組んでいる直売所があり、富澤達司さん(太平・78歳、写真①右)を中心に運営しています。角田さんは「中部地区の今後の地域づくりの計画に共感して、そして富澤さんの人間性や強い意志に惚れ込んで、この地区を選びました」と動機を話します。

中部地区では、「松代おやつこ村」という構想を立て、10月18日に設立総会を開催しました。角田さんが「自分のやりたいことにマッチした」というこの計画は、田舎体験を地区全体で受け入れながら、その交流の関係を利用して農作物の販売などにもつなげることを目指しています。「各集落がそれぞれで活動していましたが、高齢化となり連携が必要。集落を超えて活動することで、足りない部分を補完できます。その集落間のパイプ役を角田さんをお願いしたい」と富澤さんは角田さんに期待します。角田さんは「この取り組みを生活の糧にできるようにしたい。継続にはお金

集落を超えた新たな活動、継続するための仕組みづくりをしたい。ー富澤さん・角田さん



を稼ぐ仕組みが必要ですから」と、地区の人と継続する地域づくりの明確な方向性を共有しながら、これからまい進します。

食と農を考える飛渡の会



飛渡地区では、昨年2月に「食と農を考える飛渡の会(大津貴夫代表)」を立ち上げました。現在37人の地区内の生産者で構成され、中心市街地の店舗へ野菜を販売したり、市内の無人直販所を運営したりしています。同会を飛渡地区で活動している地域おこし協力隊3人が支えていて、高木千歩さん(東枯木又・40歳、写真①右)もその一人です。出荷している久保田優さん(新水・71歳)は「作ったものを捨てずに誰かに食べてもらえることがうれしいね。出荷する人は意識が変わり、野菜と向き合うようになりました。人との競争もあるし、張り合いになりますね」と取り組みを歓迎します。

野菜を購入している中心市街地のビジネスホテルSHIMIZU(本町2)の小林昌貴さんは「地

のものをなるべく使いたいのので、こうして販売してくれると助かりますね。宿泊のお客様も、地元産物を使った料理を出す喜んでくれます」と話します。

高木さんは、「地域の良いものを市外に向けて発信し、経済に結びつけると同時に、農産物を市内で消費させ、お金や資源を市内で循環させる仕組みも大切だと思っています。そのお手伝いができればと思い活動しています」と話します。

お金や資源を市内で循環させる仕組みが大切。ー高木さん

①集荷場で野菜を受け取る高木さん。作付けのニーズや消費者の情報を交換する場にもなります。②中心市街地の飲食店で野菜が提供されています。



枯木又交流施設のつとこい

枯木又地区では今年から、枯木又交流施設「のつとこい」で、6月から11月までの毎月第2日曜日に、黒米そば(写真④)の提供を始めました。枯木又地区で以前から取り組んでいた手打ちそばと古代米の生産を生かした取り組みです。山田栄さん(東枯木又・59歳、写真③右)は「高木さんがいたら、踏み出すことができた」と、その支えに感謝します。



①毎週水・土・日曜日に開いている直売所で、お客さんを迎える富澤さんと角田さん。②安くて新鮮な野菜が並びます。③市外のお客さんやリピーターも多いです。④松代おやつこ村が設立されました。



3年という時間



1

地域おこし協力隊、そして受け入れ地区双方にとつて3年という時間はどのように感じるのでしょうか。清津峡地区で活動している大庭ひとみさん（角間・22歳、写真①中）は、平成26年3月末で3年の任期を終えます。任期終了まで6か月を切った今、大庭さんの世話役である藤ノ木利直さん（小出・69歳、写真①左）と山田富美江さん（角間・60歳、写真①右）と共に活動を振り返ってもらいました。※文中敬称略

これまでの活動内容を教えてください

大庭—まずは、とにかく多くの場に参加しました。高齢者サロンに参加したり、清津峡樽囃子保存会の活動に参加したり。自分自身を知ってもらう、地区のことをより深く知ること、活動の糸口を探していました。

山田—手探りだったし、仕事の範囲が分からないようだったので、線引きが難しそうだなと見ていて感じましたね。

藤ノ木—最初は、教育の意味で農作業してもらったこともありましたね。機械の使い方など、全部体験することで、生活を体で覚えてほしいという思いでした。他の20歳の子と比べると、意志や思いがあるから、なおさら連れ回してしまいました。

山田—20歳ということが逆に良かったのかもしれないですね。30、

3年目で信頼関係が築けました。やっとスタートラインという感じです。

—大庭さん

40歳の人だったら素直に教えられなかったかもしれないですね（笑）。

大庭—マニュアルがある仕事ではないので判断に悩んだことは少なくありませんでした。お二人からいろいろとお世話してもらって、ありがたかったです。そうでないとこの地区に溶け込むことはできませんでした。

藤ノ木—ただ、地区として何をしたら良いか、何をさせたら良いかということがまとまっていなかったので苦労させたと思います。

大庭—土倉集落で運動教室を始めたり、地区の女性と女子会を開いたり新しいことも試みしました。

山田—人と人が集まる、まとまるきっかけを作ってくれました。大庭さんだからできたことなので、成果として胸を張って

ほしいと思います。

任期終了まで6か月を切りましたが、今後の期待や思いなどを教えてください。

藤ノ木—普段から「集落を、地区を良くしていこう」と考えている人は、自分も含めてなにかいけません。地区にあった小学校がなくなつてからは、なおさら地域づくりの芯がなくなりました。だから、特に、これから中心となる若い人たちにそういったことを考えてもらうきっかけづくりをしてもらえたらと思います。

山田—これまでも、いくつかのきっかけづくりをしてもらいました。それだけで十分役割を果たしてもらったと思っていいます。その役目を担ってもらうために、3年が終わってもこの地にいてほしいと素直に思いま

山間にある清津峡地区



12



2



3



4

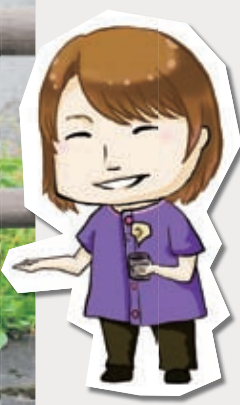
②清津峡樽囃子保存会の活動に参加し、交流を図ります。③運動教室。土倉・倉下集落の高齢者が生き生きと参加しています。④集落の若い人と今後の活動を話します。

受け入れ側の態勢が課題。地区の覚悟が大事だと気付きました。

—藤ノ木さん

と感じています。私たちの生活には、もともと期間を限定した目的みたいなものはありませんよね。その流れの中で、3年で地域を変えることは難しいと思います。ただ、大庭さんがいるだけで、今までの行事などに変化があつたことは確かです。

藤ノ木—たつた一人での活動は難儀だったと思います。他の協力者や協力隊を支援する専門員がいれば、より活動が充実すると思います。また、地区の受け入れ体制も振興会を中心に、しっかりしたものが必要だと思います。



なかったと省みています。受け入れ側の覚悟が非常に大事だと痛感しました。

大庭—協力隊の仕事抜きにして、これから始まる取組みや、今までやってきたことのお手伝いは続けていきたい。任期が終わってもこの地に残りたいですが、そのためには、住む場所と就職の問題を解決しなければいけませんね。



移住

協力隊としての任務終了後、地域に移住した宮原さん。移住の決め手はどのようなことだったのでしょうか。

地域に生きる人が一番の魅力。生き抜く力を持つ人間になりたい

3年間で、「あきらめていない」が見えてきました

田舎暮らしを求め、横浜から栃木に移住していたのですが、より田舎らしい環境を求めていました。知り合いのつてを頼りに探していたとき、たまたま十日町市を訪れ、松代・松之山の田舎らしさに自分が求めているものを強く感じました。そのときは、住むことまでは考えていませんでした。地域の人から「地域おこし協力隊」という制度をわざわざ紹介してもらったことで、十日町市に来ることを決意しました。

着任した当初は、イメージしていた「過疎・高齢化という大きな流れに反抗している」とする気持ちがある場所」に行けるという期待がありました。実際に来てみると地区

の高齢化は想像以上に進んでいる、時代の大きな流れの中で生活している雰囲気を感じました。それでも、任期の3年間で、住んでいる人たちが「地区をあきらめていない」ということが見えてきたことは大きかったですね。逆に、それがなければ残っていなかったと思います。

不便さの中で本来の生き方ができると思いました

移住した理由は数えきれないほどあります。もともと、都会の人が憧れるほどの田舎の景色の中に住みたかったことが大きな理由です。そして、都会暮らしに慣れた人にとつ



宮原大樹さん（木和田原・34歳）と家族の皆さん
3年間の任期を終え、地域の農業法人で働きながら、「地域の中で生きる」暮らしをしています。

て不便なところが魅力的です。サラリーマンをやっていた頃は周りに何でもありませんでした。お腹がすいたから近くのラーメン屋に行こうとか、そういう生活にどっぷり浸かっていました。このままだと、用意されたものがなくなるときに生きていけないんじゃないかと感じたのです。全てがそろえられていない不便さの中に身を置くことで、本来の生き方という意味で、社会復帰ができるのではないかと思います。

地域があつて人がある。それが理想です

十日町市に移り住んで、米や野菜など自分の食べ物を作っています。同じ食べ物でも「作る」という行為をすることで、見方が変わりました。そこに苦労が見える、昔の食べ物に対する尊さが分かる気がしました。食べ物に対して心からありがたさを感じるようになった。

最初はうれしかった雪も生活していくと、その大変さを感じました。ですが、みんな



昔ながらの米づくり。手間隙をかけることで、気づきや得ることがたくさんあると言います。

が朝早く起きて一斉に除雪作業をする、顔を合わせれば苦労を話し合うことに地域の一体感を感じます。農作業がでない時期に雪と向き合う暮らしも気に入っています。この地域の食の恵みは雪がもたらしてくれるので、必要だと感じますね。

私は、地域に生きる人、それが一番の魅力だと思っています。生きていく上で、この地域の人たちは強いのです。私からすれば「超人」の域ですね。しかも一人ひとりがです。特に大きな地震での被災後は、その「強さ」をさらに強く感じました。生きていく上での地が違ふ、生きるための知恵や術を全て身に付けているのと。この地域が人を作り上げる、地域があつての人、私もそんな人間になりたいです。

意欲

今年10月に、新たに2人の地域おこし協力隊が着任しました。集落の皆さんと共にこれから取り組みに向けて意気込んでいます。

もうすぐ訪れる集落の不安を解決したい

清田山集落は、高地や大自然を生かした「清田山自然運動公園キャンプ場」の維持運営をしてきました。

キャンプ場ができてから活性化にがんばってきた世代も年を重ね、高齢者の仲間入りが見え始めてきました。今はまだがんばれますが、今後、少ない若者だけでは、集落維持もキャンプ場の運営も難しいです。そこで、地域おこし協力隊に打開策を見出すお手伝いをしてもらおうと決めました。

小針さんが2人目となりますが、ますます活動を活気づけてくれることを期待しています。まずは慣れてもらうこと。お酒を飲みながらお互いの思いを交換して、そこから活動につなげていきたいですね。

清田山集落×小針伸広さん（通り山・41歳）



何気ない会話から、できることを見つけた

皆さんからは、住人として接してほしいと思っています。集落作業や行事などでの会話から、皆さんの集落に対する思いなどを聞いて、できることから取り組みたいです。他にも田代・中里下山・重地を担当しているの、気軽に声をかけていただけたらうれしいです。

小針さん

東下組地区×西山仁さん（二子・27歳）

世話役の水落儀一さん（願入・69歳）



水落さん

西山さん

活動支援に加えて、西山さんらしい提案を期待

東下組地区は、西山さんで2人目の協力隊の受け入れです。前任の高橋治夫さんからは、地区に新しい動きを作り出してもらいました。米の直販をする「棚田を守る会」、女性合唱団「さわらび長寿会」、豆の特産品化などです。

西山さんからは、この活動を引き続き支援してほしいです。そして、西山さんらしい提案もぜひしてほしいと思います。農ある営みを今後も継続していくために、力を合わせてがんばりましょう。

若さを武器にできることに取り組みたい

皆さんは、地区に対する危機感を持っていると強く感じました。それが行動力につながっているの、私もやりがいを持って取り組めると思っています。また、前任の高橋さんが地域に残ってサポートしてくるので心強いです。

青年海外協力隊で学んだことやネットワークを生かして活動していきたいです。高橋さんにはない「若さ」がありますので、若い世代との交流や取り組みも自分ができることだと考えています。

10月5日(土)、蒲生集落内の田んぼで、地域おこし協力隊の奥平百合さん(蒲生・39歳)が取り組む「May^{まい}米田」の稲刈り体験が行われました。田んぼには、他地域の若者や中心市街地の家族連れが集落住民と共に稲を刈る姿が見られました。

奥平さんは「中山間地には中心市街地にはないものがあり、できない体験ができます。必要としている、必要とされているモノやコトが、近くで完結できたら良いですね。これから今回のように、お互いをつなぎ合わせることで、できたらいいなと思います」と話します。

地域おこし協力隊は、今までなかった人と人のつながりⅡ縁を作り出します。途絶えてしまった地域内のつながりⅡ縁をつなぎ戻します。これらの活動は、住んでいる人たちの「ムラを残したい」という思いがあったこそ生かされます。

関口市長は、「地域おこし協力隊は

3年の任期があります。この3年を最大限に活用して、集落の皆さんと地域おこし協力隊が共に、集落の未来づくりに取り組んでほしいです。3年のうちに、蒔いた種が芽を出し、地域に根付くにはどうするかを考えることが大切です。

NPO法人を立ち上げ、インターン生などの積極的な受け入れや農産物の直販などの取組みを通して集落を存続させるための活動をしている池谷集落や、株式会社を設立し、農地の維持や高齢者の生活支援などに対し、地区の共助の仕組みを組織として運営しながら地域の維持に取り組む仙田地区など、今、市内では市民とさまざまな力が寄り合って「地域おこし」が始まっています。集落の維持に向けての解決策の一つとして、これらのような取組みが広がることを期待しています」と語ります。

ムラを残す、集落を未来につなげるために立ち上がってみませんか。そこには、縁をつなぐ力持ち「地域おこし協力隊」がいるのですから。

特集 ムラを残す

—縁をつなぐ力持ち 地域おこし協力隊—

地域おこし協力隊に関する問い合わせ
企画政策課協働推進係 ☎757-3693

特集

ムラを残す

—縁をつなぐ力持ち 地域おこし協力隊—

完

小中一貫教育 つながる 小学校中学校③

子どもの現状と課題その 3 体力（全体傾向）

体力テストの種目別全国平均到達率は、全種目中の約 8 割を維持していて、子どもの体力は比較的よい状態にあります。しかし、種目別に細かく見ると、学年や男女によって全国より劣る種目があります。また、体力と密接に関係する生活実態では、全国に比べ小・中学校ともにゲームをする時間が長く、家庭学習の時間が短いので、メディアコントロールが課題です。

※メディアコントロール：テレビやゲームなどをする時間を自分で管理すること

【市内中学 3 年生の 1 日（平均）】

6:30		8:15		16:00 18:10		23:00	
睡 眠	朝食・登校	学 校	部活等 130分	家庭学習、塾 1 時間	テレビ 2 時間20分	ゲーム 1 時間30分	睡 眠 7 時間30分

【全国の中学 3 年生の 1 日（平均）】

6:40		8:15		16:00 18:00			23:20	
睡 眠	朝食・登校	学 校	部活等 120分	家庭学習、塾 1時間40分	テレビ 2 時間20分	ゲーム 1 時間20分	睡 眠 7 時間20分	

体力づくりでは、発達理論に基づき運動神経を高めるコーディネーショントレーニングを取り入れ、学年毎に必要な体力づくりをしています。ネージუსスポーツクラブなどの指導員を招き、中学校区で合同授業を実施するなど、地域と協働した指導も行われています。

健康づくりでは、生活習慣改善の強調週間などの継続的な取り組みを中心に、養護教諭部会企画の合同保健授業、大人と子どもが地域ぐるみで話し合う合同保健委員会、生活習慣改善のための小・中学校共通の合言葉による啓発活動などで、生活習慣の改善に向けて取り組んでいます。



コーディネーショントレーニング

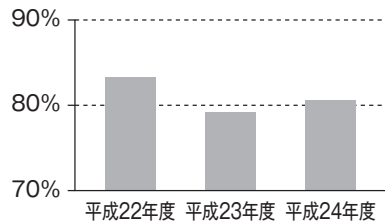
ワン ツー スリー
【元気生活 1・2・3】

①登校する 1 時間前には起きよう
②メディアは 2 時間以内にしよう
③朝ごはんは主食・主菜・副菜の 3 品食べよう
（拡大中学校区（十日町中・中条中）共通の合言葉）

小中一貫教育では 小学校と中学校、そして学校と保護者・地域がつながり、共に子どもたちを育む教育を目指しています。

- “ふるさと十日町市を愛し、自立して社会を生きる子ども”を育む
- 平成23年度から 4 つのモデル中学校区で試行を始めた小中一貫教育は、平成26年度から全中学校区で完全実施します。取り組みと成果を報告します。
- 問合せ：十日町市教育委員会学校教育課小中一貫教育推進係 ☎757-3336

小・中学校の体力テストの 種目別全国平均到達率



※体力テスト種目別全国平均到達率：144種目（8 種目×9 学年×男女）のうち全国平均に達している種目数の割合

小中一貫教育での取り組み

各中学校区で体力テストの結果を分析し、子どもの実態に即した体力づくりや健康づくりを進めます

子どもたちの体力が向上してきました

川西中学校区では、小・中学校共通の基礎的な体力向上対策と生活習慣改善の取り組みによる相乗効果で、子どもたちの体力が向上してきました。健康でたくましい体は、挑戦する意欲、我慢する忍耐力や自己実現する自信の源です。地域ぐるみで子どもたちの体力づくりや健康づくりを進めることが大切です。

モデル中学校区での成果

このコーナーでは、市の魅力発見や、皆さんの生活に直結する情報などをお知らせします



Pick Up 十日町市古文書整理ボランティアが「新潟県自治活動賞」を受賞

市民ボランティアの長年の活動が実を結びました

●問合せ：教育委員会文化財課 ☎757-5531



【誰でも参加できる取り組み】
ボランティア活動の運営に当たり、古文書チーム・写真整理チーム・織物チーム・軽作業チームなどにチーム編成を行い、参加者の能力や志向に合わせたことで、誰でも活動に参加できるようにしました。その結果、ボランティア登録者は約80人、平成25年 3 月末までに延べ 8 千人が活動に参加しました。



刊行された目録

②古写真の整理
旧山内写真館資料の整理とデータベース化を行うとともに、写真展を開催し来場者から写真にまつわる情報を収集しました。

③研究会の結成
加賀屋・蕪木家文書の整理を行ったことが契機となり、平成20年 6 月に「縮間屋・蕪木家資料研究会」が結成され、毎月 1 回加賀屋の経営資料を読み解き、解説文を作成し、郷土資料双書と

今後の活動
これまでの作業の成果として、約 3 千点の写真のデータベースと、2 L サイズの写真を作成し、アルバム 38 冊に収めました。これらを市に寄贈し、多くの皆さんが閲覧できるようにします。今後も、月 2 回のペースで写真整理を継続すると共に、古文書整理作業も再開する予定です。



写真展を開催し、来場者から写真に関する情報を収集しました

膨大な資料整理を経て
研究会の結成へ

①古文書の整理
越後縮間屋・加賀屋蕪木家文書約 6 万点、上野・星名家文書約 2 万点、高島区有文書約 3 千点などの資料群の整理と目録の刊行およびデータベース化を行いました。

十日町市古文書整理ボランティア（羽鳥勝男代表）が、第 32 回新潟県自治活動賞を受賞しました。今回の受賞は、相次いだ自然災害で被災家屋などに保管されていた古文書や古写真が市に寄贈・寄託され、市民ボランティアが資料整理を行っただけでなく、その成果を展示会や講演会として活用した実績が評価されました。

Pick Up 上下水道局からのお知らせ

平成24年度水道事業決算と平成25年度上半期の業務状況をお知らせします

●問合せ：上下水道局事務係 ☎757-6531

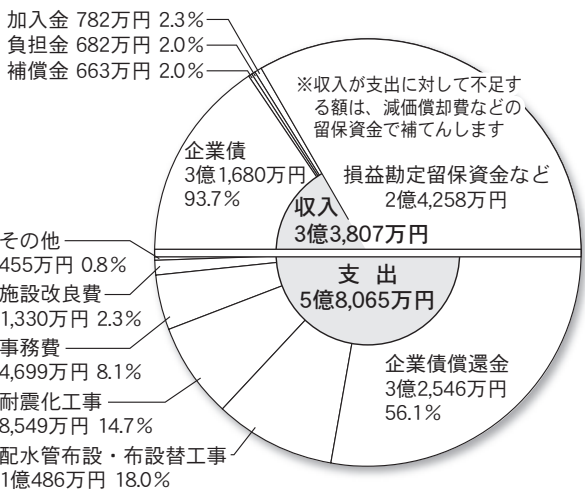
24年度決算

業務量：①給水栓数…1万2,188栓、②年間総給水量…362万6,173立方メートル

③一日平均給水量…9,935立方メートル、④主な建設改良事業・配水管布設及び布設替工事…27件

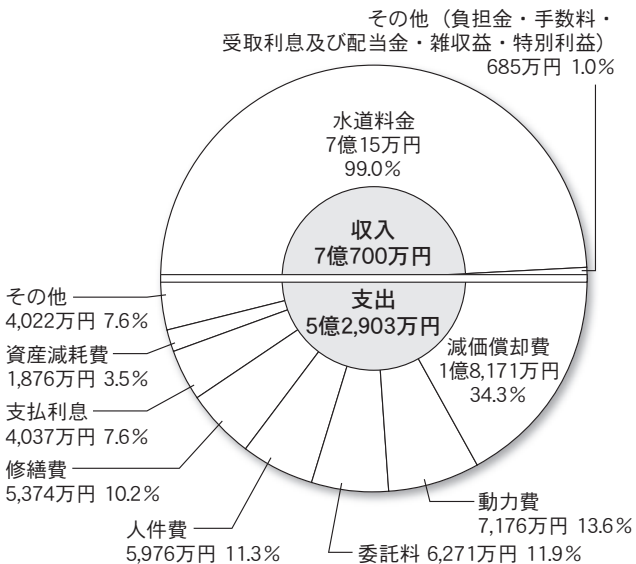
資本的収入・支出

（税込）



収益的収入・支出

（税込）



25年度上半期の業務状況

※平成25年4月1日～9月30日

給水業務量の状況

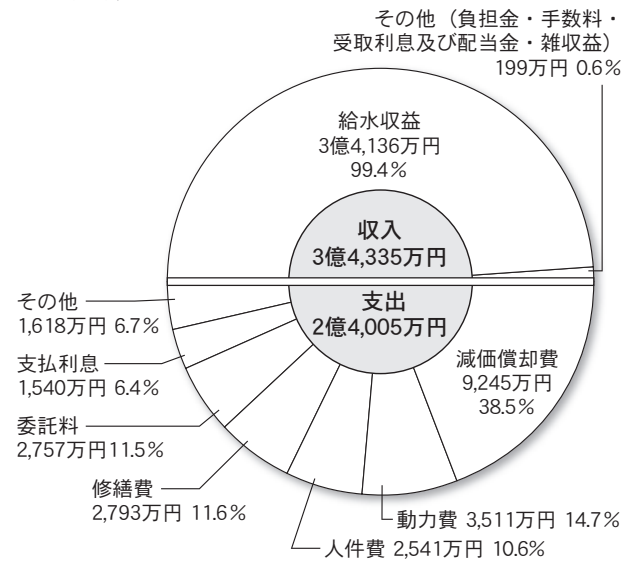
区 分	25年度 上半期	24年度 上半期	前年度比	
			増 減	比率（%）
給水戸数（栓）	12,226	12,210	16	0.1
給水量	総 数（㎡）	1,768,429	1,795,574	△27,145
	一日平均（㎡）	9,664	9,812	△148

※給水栓数は調定件数（平均）

※給水量は調定水量

損益計算書

※消費税相当分を除いて表示
※減価償却費は見込み額を計上



昭和とおまち

No.56

■撮影時期：昭和57年11月

■撮影場所：清津峡

国道353号線に設置されている清津峡トンネルは、以前は清津川沿いにはありましたが、昭和57年に開通しました。

旧トンネルよりも幅員が広がり、落石などの心配もないことから、沿線集落の交通に重要な役割を担っています。また、紅葉シーズンには、県内外からの観光客を安全に清津峡溪谷へ誘導するトンネルとしても役立っています。



清津峡トンネル開通

■問合せ：中里支所地域振興課 ☎763-2511

スポーツとお口の健康

健康のために運動をすることはとても重要ですが、スポーツとお口の健康の関係はあまり知られていません。スポーツを楽しむために、お口の健康にも関心に向けてみましょう。



問合せ 健康支援課母子保健係
TEL757-9759

●スポーツと歯の関係

スポーツの基礎となる身体づくりは、なんでもよく噛んでしっかり食べることから始まります。また奥歯でしっかり噛むことは全身の筋力アップにつながります。噛み合わせは姿勢を保つためにも大切です。正しい噛み合わせは身体動揺を防ぐことから、高齢者などの転倒予防にも効果があるといわれています。

噛み合わせを保つためにも、失った歯があるときは、義歯などで

●スポーツ外傷から歯を守るう

激しいスポーツでは、接触で前歯が折れるといった外傷が起こることがあります。マウスピース（マウスガード）を着着することで、外傷を予防することが可能です。その人のお口に合ったマウスピースは、歯科医院で作成できます。かかりつけの歯科医院に相談しましょう。

●外傷で歯が抜けてしまったときは

まず、外傷が起こった状況を確認します。歯が抜けてしまうほどの衝撃は、同時に脳への影響も考えられますので、脳外科受診をお勧めします。

また抜け落ちた歯は、歯の根の部分には触れず、専用の保存液か未開封の牛乳に入れて、できるだけ早く歯科医院に受診しましょう。水で洗うと、歯の歯根膜がダメージを受けるのでやめましょう。正しい対処をすることで、再植の可能性が高まります。

表彰おめでとうございます



関東管区警察局長表彰
(優良団体)

(公財) 十日町地区交通安全協会 川西女性部 (代表：江口綾子さん)

平成9年に発足してから、女性ならではの交通事故防止活動が高く評価されました。県道沿いに花壇を利用した「交通を安全の広告施設」を設置し、手入りを欠かさず行うことで美しい状態を保ち、ドライバーに安全運転を呼び掛けています。

今後も女性の視点での交通安全運動に期待が寄せられています。



文部科学大臣表彰
(生涯スポーツ優良団体)

特定非営利活動法人 ネージュスポーツクラブ

平成20年設立当初から、市の生涯スポーツ推進・健康増進の一翼を担う活動が認められました。代表の齋藤國平さんは「会員・スタッフが一丸となって取り組んだおかげです。これからも誇りと責任感を持って活動したい」と話しました。



白熱した試合で観客を魅了！

10月20日(日)：当間多目的グラウンド（クロアチアピッチ）



プレナスなでしこリーグ第15節アルビレックス新潟レディース対岡山湯郷ベル^{ゆのこう}の試合が行われ、0対2で、岡山湯郷ベルが勝利を納めました。前日には、水沢南部保育園の園児たちが、アルビレックス新潟レディースの練習を見学し、激励しました。



「第2の美人林」になるように思いを込めて

10月14日（体育の日）：「森の学校」キョロロ

キョロロ開館10周年記念として、地域の人約40人が、1時間半かけて約500本のブナの苗を植えました。使われたブナの苗木は、キョロロ周辺のブナ林に落ちていた種などから栽培された苗木で、約2メートルに育ったものもありました。同イベントには、東京松之山会からの景観資金の一部が活用されています。すくすくとブナが育ち「第2の美人林」になるようブナの成長を見守っていきます。



いくつになっても野球少年

10月13日(日)：松代総合グラウンド

「第1回シルバー・ベースボール大会」が開催されました。有志の声がけで、77歳をはじめとする永遠の野球少年たち18人が繰り広げた熱戦は2対2の引き分け。参加者は「久々の野球はやっぱり楽しかった。今回は試験的開催だったので、来年からは広く参加者を募り、春と秋の2回やっていきたい」と意気込みを語っていました。



手作り看板でポイ捨て防止！

10月16日(水)：田沢小学校

十日町市環境衛生推進協議会中里分会と、田沢小学校自然大好き委員会の児童と協働で環境美化の看板を作りました。「ポイ捨て禁止」「自然を大切に」などのメッセージと絵で個性あふれる看板が完成。来年の春、中里地区内の不法投棄が多い箇所を設置する予定です。



サイクリングで地域の魅力を体験

10月27日(日)：市内一円



自転車で地域を回り魅力を体験する、サイクリングイベント「越後妻有RIDEQUEST2013^{ライドクエスト}」が開催されました。上級・中級・初級に分かれて、20キロメートルから最長100キロメートルまでの4種類のコース設定に延べ120人が参加しました。途中のチェックポイントや休憩所では、地域の皆さんからのおもてなしを受け、参加者は「おいしくて食べ過ぎた。お腹がいっぱいでゴールできるか心配」と満面の笑顔で話しながら、地元の皆さんと交流を深めていました。



お互いのよさを認め合おう

10月1日(火)：上野小学校

人権啓発キャラバン隊が、上野小学校を訪問。同隊は、児童の人権への意識を高めるため、県内13か所の小学校を訪問しています。バラバラになったハートのかけらを取り戻し、「心のメッセージ」を書いてもらうことで、人権ハートに生命の息吹が吹き込まれていきます。このほか、同校で取り組まれている『お互いのよさががんばりを認め合う活動「花さき山」』の活動発表も行われました。

お知らせ・ガイド 十日町・川西・中里地域と松代・松之山地域間の☎には市外局番 025 が必要です

男女共同参画推進委託セミナー
まちづくりに女子力を！

市内で活躍している人に直接質問できる参加型セミナーです。男性も女性もぜひ参加してください。

日 11月16日(土)午後1時30分～4時30分

会 情報館

¥ 無料

問 ひとサポ事務局 (☎761-7444)

「高橋八十八ファン集まれ」
村の物知り博士と語る会

日 11月17日(日)午後1時30分～

催し・講座

GUIDE

～お知らせ・ガイド～

会 奴奈川姫の家 (松代室野診療所隣)

¥ 無料

問 ふるさとの宝物を発掘保存する会・岩田 (☎090-5255-9699)

JR東日本「自然と地域と共生できる鉄道へ」パネル展

来場者全員に粗品プレゼント。

日 11月18日(月)～12月1日(日)午前10時～午後6時※18日(月)は午後1時から、12月1日(日)は午後4時まで

休 11月25日(月)

会 情報館

問 JR東日本信濃川発電所業務改善事務所 (☎025-757-9140)

枯木又新そばの会

日 11月24日(日)午前10時～

会 交流施設のつとこい

¥ 千円、小・中学生800円

他 そば打ちができる服装

問 春川 (☎759-2216)

県民公開講座

日 11月28日(木)午後1時30分～午後3時※開場1時

催し・講座 募集

福祉・健康

子育て

スポーツ

くらし・相談

会 アオーレ長岡

内 上手な歳の重ね方、元気よく、機嫌よく！これからの人生設計、

講 沖藤典子さん (ノンフィクション作家)

申・関市消費者協会事務局 (☎757-3139)

生誕100年 星裏一展Ⅲ
星裏一を語り継ぐ

日 11月30日(土)まで午前9時30分～午後5時※入館は4時30分まで

休 火曜日

¥ 500円、小・中学生200円

会・関星と森の詩美術館 (☎752-7202)

クロスステッチ着付け教室

日 11月・12月の毎週木曜日午後1時30分～3時30分

日 1回500円

定 10人

持 着物一式

他 きものは貸し出し可 (500円)

会・関クロスステッチ (☎757-2323)

募 集

市人権教育・啓発基本計画策定委員募集

市人権教育・啓発基本計画の策定にあたり、意見を述べる委員を募集します。

● 募集人数 2人以内

● 委嘱期間 基本計画策定まで※26年度中を予定

● 応募資格 市内に住所を有する20歳以上の人で、人権教育・啓発の推進に関心があり、年3回程度の会議に出席できる人※会議は平日の昼間を予定

● 選考方法 書類審査

● 報酬 委員会1回につき5,500円

※ 11月29日(金)

申・関所定の用紙 (市民生活課および各支所に配置) に氏名 (ふりがな)・性別・生年月日・住所・郵便番号・電話番号・職業・応募の動機を記入し、市民生活課市民年金係 (☎757-3116)

広告掲載

地域と暮らしと人をデザインする

www.facebook.com/10city.flowerhome

十日町市中条甲 921 番地 1

株式会社 三ツコーホーム

お問合せ 0120-550-208

※市では広告を募集しています。詳しくは秘書広報係まで
市報とおかまち 平成25年11月10日号



村山 志緒里さん (田中町本通り・21歳)
高校を卒業後に再就職し1年6か月が経過。製品の検査作業に携わっている。

村山さん―検査で出荷できない製品を発見したときは、会社の信頼に貢献しているんだと思い、やりがいを感じます。

小宮山さん―今は、機器の簡単な調整しかできませんが、自分が調整した機器で製品が完成したときはとてもうれしいです。

温かく見守られていて感謝しています

小宮山さん―困っているとき、先

協力企業

求人あり

■(株)メイケン

・精密電子部品製造
・十日町市塚田
・従業員数96人
・☎752-5191

携帯電話に使用する薄型・小型コネクタなどの製造のほか、自動機の設計製作なども手掛けています。

若者×若者 十日町市の仕事人

キラメキワーカーズ

語る 仕事・会社・十日町市への思い

問合せ
産業政策課
☎757-3139



小宮山 弘規さん (関根2・21歳)
高校卒業後に県外へ。地元での就職希望がかない入社。コネクタ製造のマシンオペレーターを担当。

生 活リズムを勤務に合わせ 仕事の厳しさを実感

小宮山さん―会社がスマートフォンの部品を製造していることを知り、モノづくりに挑戦したいと思いました。入社したときは、交代制の夜間勤務に慣れるまで大変でした。

村山さん―事務を希望して入社しましたが、現場を知ることが大事と検査部門に配属され、今では検査作業がとても楽しいです。出荷できない製品が一つでも見つかったら、全てを再検査することもあり、仕事の厳しさを感じます。

少 しずつ成長している自分を感じています

早く先輩のように会社に貢献できるようにになりたい

小宮山さん―難しい調整を一人でできるようになって、さまざまな製品の製造を任せてもらえるようになりたいです。

村山さん―先輩のように素早い検査作業ができるように、確実な検査技術を早く身に着けたいと思います。

輩が優しくフォローしてくれ、いつも感謝しています。

村山さん―社長をはじめ、社員同士の気軽な声掛けがあり、社内のコミュニケーションがとてもいいです。

● 町 応募ガイド（県の全国植樹祭ホームページまたは市役所・各支所・公民館などに配置）をご覧の上、第65回全国植樹祭新潟県実行委員会事務局（☎025-280-5787）※18歳未満は成人が代表者として応募してください

● 演 出 招 待 者 募 集

天皇皇后両陛下のお手植えの様子を見ることができま

● 川 口 き ず な 館 周 辺

● 市 内 在 住 の 小 学 生 以 上

● 募 集 要 項（市役所・各支所・公民館などに配置）

● 災 係（☎757-9917）

● ※18歳未満は成人が代表者として応募してください

● 共 通

● 平 成 26 年 6 月 1 日（日）

● 特 案 内 状 ・ 写 真 付 きの 身 分 証 明 書

● 12 月 13 日（金）※当日消印有効

● 風 し ん 予 防 接 種 費 用 の 助 成

風しんの流行拡大と、先天性風疹症候群の発生を防ぐために、風しん予防接種の費用を一部助成しています。対象となる人は早めに受けましよう。

● 市 内 に 住 所 が あ り、次 の い ず れ か に 該 当 す る 人

● 妊 娠 を 予 定、ま た は 希 望 し て い る 女 性

● 妊 婦 の 夫 お よ び 同 居 家 族

● ※た だ し、風 し ん に か か っ た こ と の あ る 人、風 し ん ま た は 麻 し ん 風 し ん 混 合 予 防 接 種 を 2 回 受 け た こ と の あ る 人 は 除 き ま す

● 助 成 額

● 風 し ん 単 独 ワ ク チ ン 予 防 接 種 Ⅱ 4 千 円

● 麻 し ん 風 し ん 混 合 ワ ク チ ン 予 防 接 種 Ⅱ 6 千 円

● ※ 助 成 は 1 人 1 回 の み

● 実 施 期 間 Ⅱ 平 成 25 年 4 月 1 日 か ら 平 成 26 年 3 月 31 日 ま で の 接 種

● ※ 詳 細 は、市 ホ ー ム ペ ー ジ で

● 高 次 脳 機 能 障 害 者「家 族 の つ ど い」

日頃の悩みや苦勞を語り合いませんか。

● 12 月 12 日（木）午後 2 時～午後 3 時 30 分

● 会 新 潟 県 精 神 保 健 福 祉 セ ン ター（新 潟 市）

● 対 高 次 脳 機 能 障 害 が い 者 の 家 族

● 11 月 28 日（木）※事前に担当者がお話を伺います

● 申 ・ 関 県 高 次 脳 機 能 障 害 相 談 支 援 セ ン ター（県 精 神 保 健 福 祉 セ ン ター 内 ☎025-365-0177）

● 子 育 て

● 十 日 町 お や こ 劇 場 ・ 鑑 賞 会

● 【よ せ 鍋 寄 席】

● パ ー ベ ッ ト 落 語 や 人 形 芝 居 に 抱 腹 絶 倒！

● 日 11 月 30 日（土）午後 7 時～

● 対 小 学 生 以 上 ※ 大 人 同 伴 で 参 加 し て く だ さ い

● 職 員 募 集 ク ロ ス テ ン

平成26年4月1日付け採用の職員を募集します。

● 応 募 資 格＝①大学・短大・専門学校など（中学・高校は除く）の既卒業者、もしくは平成26年3月卒業見込みの人、②普通自動車免許を有する人、③平成26年4月1日現在で満26歳未満の人

● 採 用 職 種＝事業全般

● 採 用 人 数＝1 人

● 申 ハローワーク十日町

● 問 クロステン（☎757-2323）

● 女 性 従 業 員 募 集 千 手 温 泉 千 年 の 湯

● 仕 事 内 容＝フロント受付ほか

● 労 働 時 間＝1 日 6 時 間、月 21 日 程 度

● 勤 務 形 態＝早番・中番・遅番の交代制

● 待 遇＝時給750円～、社会保険完備

● 申 ハローワーク十日町

● 問 ㈱ ま ち づ くり 川 西（☎761-1515）

● 職 員 募 集（福）な か さ と 福 祉 会 看 護 職

● 採 用 日＝随時

● 募 集 職 種 ・ 人 数＝看護職員（正職員・臨時職員・パート）3 人

● 勤 務 形 態＝午前 7 時 から 午後 7 時 30 分 の 内 8 時 間 ま た は 6 時 間、パ ー ト（相 談 に よ る）

● 資 格 ・ 経 験 な ど＝看護師・准看護師※経験者優遇

● 賃 金＝基本給16万円～28万円※年齢・経験年数による

● 勤 務 先＝特別養護老人ホーム七川荘

● 他 健康保険・厚生年金・雇用保険あり。通勤・時間外・資格手当、賞与年2回あり

● 申 ハローワーク十日町

● 問 特 別 養 護 老 人 ホ ー ム 七 川 荘（☎763-2669）

● 人 形 劇「お っ か い っ て た の し い ！？」

● 日 12 月 1 日（日）午前 11 時～

● 対 乳 幼 児 ～ 小 学 校 中 学 年 ※ 大 人 同 伴 で 参 加 し て く だ さ い

● 内 コ ブ タ く ん が 初 め て の お 使 い を 経 験 す る 人 形 劇 ほ か

● 共 通

● 会 千 手 中 央 コ ミ ュ ニ ティ セ ン ター

● ¥ 月 額 7 0 0 円（年 中 以 上、会 費 と し て）※ 当 日 入 会 可、家 族 4 人 目 か ら 3 0 0 円

● 資 源 物 回 収 セ ン ター の 変 更 に つ い て

●（十 日 町 ・ 川 西 ・ 松 代 地 域 の 人）

● 関 丸 山（☎090-2548-0507）

● 12 月 2 日（月）か ら、資 源 物 回 収 セ ン ター（ス ト ッ ク ヤード）の 場 所 を 変 更 し ま す。ご み 焼 却 場 の 基 幹 的 設 備 改 良 工 事 に

● 障 が い 者 へ の 理 解 を 深 め る こ と が で き ま す。ぜ ひ ご 覧 く だ さ い。

● 日 12 月 14 日（土）～ 平 成 26 年 1 月 3 日（金）

● ¥1,700 円 ※ 学 生 ・ シ ニ ア な ど 割 引 あ り、詳 し く は 問 い 合 わ せ て く だ さ い

● 会 ・ 関 十 日 町 シ ネ マ パ ラ ダ イ ス（☎752-7505）、ま た は 福 祉 課 障 が い 福 祉 係（☎757-3782）

● 住 生 活 総 合 調 査 に 協 力 く だ さ い

● 国 土 交 通 省 で は、都 道 府 県、市 町 村 の 協 力 の 下 に、12 月 1

● 伴 い、工 事 期 間 中 は ス ト ッ ク ヤード の 使 用 が 出 来 ま せ ん の で、資 源 物 は エ コ ク リ ー ン セ ン ター 1 階 へ 搬 入 し て く だ さ い。ま た、車 両 を 駐 車 す る ス ペ ー ス な ど も 限 ら れ て い る の で、搬 入 の 際 は 受 付 の 指 示 に 従 い 事 故 の な い よ う 注 意 し て く だ さ い。な お、受 付 日 お よ び 時 間、品 目 の 変 更 は あ り ま せ ん が、資 源 物 は 可 能 な 限 り ク リ ー ン ス テー シ ョ ン へ 出 す よ う ご 協 力 を お 願 い し ま す。

● 関 環 境 衛 生 課 衛 生 生 業 務 係（☎752-3924）

● 【周 辺 地 図】

● 新

● エ コ ク リ ー ン セ ン ター（焼 却 場）

● 資 源 物 回 収 セ ン ター

● 旧

● 受 付

中心市街地活性化基金への寄附ありがとうございます

10月31日現在（順不同・敬称略）

十日町きもの流通連合（㈱一絵、㈱いつ和、上村商事㈱、㈱小林商事、㈱セイショウ、雪布庵、三廣商事㈱、㈱宮嶋商事、㈱渡商商事、千原㈱）、㈱後藤電機、大島電気㈱、㈱村尾電気、十日町織物工業協同組合、信栄電機工業㈱、㈱イイキ、酒井税務会計事務所、和久井税理士事務所、十日町タクシー㈱、㈱田村自動車、東日本旅客鉄道㈱信濃川発電所業務改善事務所社員一同 ほか 1 社

● 寄附金総額＝2,001万円

※平成25年1月31日までの寄附は、市報2月10日号に掲載しています

〈中心市街地活性化基金とは…〉

平成25年6月28日に内閣府から認定を受けた、十日町市中心市街地活性化基本計画に基づき設置した基金です。中心市街地の活性化とにぎわい創出のための活動を支援することを目的としています。中心市街地活性化協議会や中心市街地整備推進機構など関係者と協議しながら、中心市街地活性化のための活動資金として有効に役立てていきます。

● 関 中心市街地活性化推進室（☎757-3691）

日(日)、全国各地において「平成25年住生活総合調査」を行っています。

この調査は、住生活の安定・向上に係る総合的な施策を推進する上で必要となる基礎資料を得るために、居住環境を含めた住生活全般に関する実態や居住者の意向・満足度などを総合的に調査するものです。

11月21日(木)から12月10日(火)までの間、統計調査員証を持った調査員が、対象となった世帯を訪問しますので、ご協力をお願いします。

☎ 都市計画課建築住宅係 (☎ 757-9935)

一日金融公庫相談会

冬期決済資金や賞与資金など運転資金、設備資金の相談を受け付けます。

日 11月19日(火)午前10時30分～午後4時

持 過去2期分の決算書・申告書、直近の試算表、印鑑

※ 11月15日(金)

会・申・☎ 十日町商工会議所 (☎ 757-5111)

税務署からのお知らせ

所得税の青色申告決算書の作成方法などについての説明会です。

【営業所得関係】

日／会 12月2日(月)午後1時30分～3時／松代総合センタ
1、6日(金)午前10時～11時30分・午後1時30分～3時／中央公民館

【農業所得関係】

日／会 12月5日(木)午前10時～11時30分／十日町農業協同組合本店
☎ 十日町税務署 (☎ 756-6001)

備えよう、社員の万一に。労働保険

労働者（アルバイト含む）を一人でも雇っている事業主は労働保険（労災保険・雇用保険）に加入しなければなりません。

労働保険は、労災保険・雇用保険の各種給付金のほか、雇用の安定のために事業主に支給される助成金などの各種支援制度も設けられていて、労働者はもとより事業主のた

めにも欠くことのできない制度です。

まだ労働保険の加入手続きを行っていない事業主は、管轄の労働基準監督署またはハローワークで加入手続きをしてください。不明な点は気軽に問い合わせてください。

☎ 新潟労働局労働保険徴収課 (☎ 025-288-3502)、またはハローワーク十日町 (☎ 757-2407)

スギヒラタケの摂取を控えましょう

スギヒラタケ(市内では「カタハ」とも呼ばれています)について、急性脳症の発症との因果関係が否定できないため、腎機能の低下している人だけでなく、一般の人でも摂取を控えてください。

☎ 新潟県福祉保健部生活衛生課 (☎ 025-280-5205)

ひきこもり相談ダイヤル

県では、就学・就職の問題などさまざまなことでひきこもり、悩んでいる本人や家族

が地域で必要な支援を受けられるよう「新潟県ひきこもり地域支援センター」を開設しました。悩んでいる人は相談してください。

● 相談窓口／ひきこもり相談ダイヤル (☎ 025-284-1001) ※精神保健福祉センターの相談員が対応

☎ 県ひきこもり地域支援センター (県福祉保健部障害福祉課内 ☎ 025-280-5201)

国有財産を売却します

国有財産を一般競争入札で売却します。入札に必要な手引書は11月26日(火)まで長岡国道事務所で交付しています。現場説明会を11月27日(水)午前10時30分から開催します。現地に集合してください。

● 土地 ①四日町新田266-4 (249・87平方メートル)、②四日町新田267-4 外1筆 (515・19平方メートル)

● 申込期限 12月4日(水)午後5時まで

● 入札日時／場所 12月13日

(金)午前11時～／長岡国道事務所

☎ 国土交通省長岡国道事務所 経理課 (☎ 0258-364561)

列車の一部運休・バス代行輸送の実施

飯山線十日町駅～土市駅間の羽根川橋りょうの本復旧のため、橋桁架替工事を実施します。これに伴い飯山線の一部列車が運休となり、バス代行輸送になりますのでご注意ください。

● 実施日時 11月16日(土)午後8時頃～11月17日(日)正午頃
※ 工事が予定どおり実施できなかったときは11月30日(土)～12月1日(日)の同時間帯に延期

● 運休・バス代行輸送区間 飯山線十日町駅～森宮野原駅間

※ 代行バスの運行時刻などの詳細は、JR東日本の駅・列車内の掲示を確認するか、問い合わせください
※ 代行バスはJR乗車券・定期券で乗車可能です
※ 代行バスは列車よりも所要

地籍調査（住所表示変更）事業についてお知らせします

☎ 都市計画課地籍調査係 (☎ 757-3342)

平成21年度から市街地を15計画区に分割し、順次地籍調査を進め、併せて分かりやすい住所表示に変更しています。

市街第2・第3計画区の住所表示が変更になります

● 市街第2計画区

(該当行政区：本町1丁目上、本町西1丁目、袋町東、袋町中、袋町西、十日町栄町、昭和町1丁目)

● 市街第3計画区

(該当行政区：本町1丁目下、本町東1丁目、本町2丁目、本町3丁目、宮下町東、宮下町西、諏訪町、神明町、関口樋口町、水野町、若宮町) 地籍調査が完了し、11月18日に登記所へ成果を送付します。

それに伴い、同日をもって市街第2・第3計画区に居住の皆さんの住所が変更になります。

市街第4～7計画区の進捗状況

● 市街第4計画区

(該当行政区：高田町1丁目、高田町2丁目、昭和町2丁目、昭和町3丁目、西寺町、七軒町、加賀糸屋町、泉町、駅通り)

● 市街第5計画区

(該当行政区：本町4丁目、本町5丁目、昭和町4丁目、稲荷町1丁目、稲荷町2丁目、稲荷町3丁目東、稲荷町3丁目南、田中町東、田中町西、田中町本通り、西浦町東、西浦町西、旭町)

平成25年度に現地調査を実施した市街第4・第5計画区は、平成26年秋ごろに登記所に成果を送付し、住所表示が変更になる予定です。

当該計画区の皆さんには概要をお知らせしましたが、住所変更手続きに必要な各種証明書や手続きのしおりなどは、11月22日に該当する人に発送します。

なお、新旧地番対照表や手続きのしおりは市ホームページでも見ることができます。

■ 変更例

変更前表示：十日町市〇〇番地

十日町市辰甲〇〇番地

変更後表示：十日町市本町西一丁目〇〇番地

十日町市宮下町東〇〇番地

● 市街第6計画区

(該当行政区：学校町1丁目、学校町2丁目、川原町)

● 市街第7計画区

(該当行政区：上川町、田川町1丁目、田川町2丁目、田川町3丁目)

平成26年度に現地調査に入ります。

※ 地籍調査の進捗をはかるため、2つの計画区を実施する予定です

※ 調査に入る前に関係者へ案内文書を送付すると共に、説明会を開催しますので、参加をお願いします

また、円滑な調査のために現地調査前に隣接の土地所有者と筆界（境界）について確認をお願いします。

新潟大学法律相談部 無料法律相談会

時間がかかるため、通常ならば接続予定の列車に乗り換えできなくなるときがありますので、注意してください

☎ JR東日本お問い合わせセンター (☎ 050-2016-1600)

離婚・相続・賃貸借などの民事法律相談会を開催します。※事前電話申し込みが必ず

日 12月1日(日)午前10時～午後5時

会 新潟大学五十嵐キャンパス (新潟市)

● 電話受付 11月15日(金)～17日(日)午前10時～午後7時 ※ 15日は午後1時～

● 受付電話番号 1 ☎ 025-269-7104、☎ 025-263-1561 ※ 期間中のみ

☎ 阿部 (☎ 080-12212-3583)



齋木 武雄さん (控木・100歳)

元気なお年寄りを紹介し、健康の秘けつなどをうかがいます。

わがん あいご 和顔愛語 ～はつらつ おじいちゃん～

15

「人と会ったり、話したりすることが好き。おしゃべりしてボケないようにしています」と話す武雄さんは今年で100歳。戦争も経験した武雄さんは、「ここまで生きるとは思わなかった」と人生を振り返ります。子ども4人、孫12人、ひ孫14人と家族に恵まれ「幸せだよ」とニコリ。100歳のお祝いでは、一堂に集まり、にぎやかで楽しいひとときを過ごしました。

我が家の

我が家のイクメン☆カジダン募集中！家事育児に取り組んでいる写真と紹介文をお寄せください。申込み・問合せは企画政策課秘書広報係 ☎757-3112

イクメン☆カジダン

20

「イクメン」とは育児を楽しんでいるメンズ(男性)、「カジダン」とは家事に積極的な男性のことです。そんな我が家自慢のイクメン・カジダンを紹介します。

わが家の

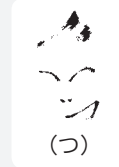
パパ…川上忠宏さん
(発電所通り東・38歳)



寝顔しか見れない日もあるけど、可能な限り育児に協力してくれます。お休みの日には、双子兄妹との時間を大切にしてくれるハナマルパパです。(ママより)

▼この一か月、特集の取材でたくさん地域にお邪魔しました。あちらに行けば「おまえさん、昼飯食べていかつやい、こちらに行けば「カボチャ1つ持っていかなきゃ」と、訪ねた先で借しきらないおもてなしを受けました。中山間地で生きていく強さ以上に、その優しさに触れ、そんな皆さんが住むこの土地がますます好きになりました。早く取材を受けてくださった皆さんに心から感謝します。

▼とある集落に取材に伺ったとき、家が思ったと想像される敷地に、実が見事に成っている柿の木がありました。生活の営みが途絶えたにもかかわらず、柿の木だけが奮闘している様を見ると、何とも言えないせつない気持ちになりました。特集をご覧になって、さまざまな思いがあるかとは思いますが、前向きな気持ちを持ってもいいと思います。幸い、前向きな気持ちを持ってもいいと思います。幸い、前向きな気持ちを持ってもいいと思います。



わが家の

パパ…八重澤竜也さん
(発電所通り西・35歳)



何事も全力で子どもと接するお父さん。子どもたちはそんなお父さんと遊ぶのが大好きで、毎日笑い声が絶えません。何でも手伝ってくれるお父さんにいつも感謝♡感謝です。(お母さんより)

あすこたね

▼稲刈りが終わり、農作業の忙しさも一段落。山々の紅葉も始まりました。最近では朝夕の気温が下がり肌寒いほどです。夜明けも遅くなり、布団から出るのがつらい季節になりました。

▼今年、松之山地域のゆるキャラ「ゆとつと」が、「ゆるキャラグランプリ2013」に出場しました。中学生の故郷への思いから制作された「ゆとつと」は、松之山を代表するものがモチーフになっています。グランプリも終盤ですが、千体を越えるゆるキャラの中で、初出場ながら健闘しています。十日町市のゆるキャラ「ネーじ」を応援してください。



事務局の皆さん。顧問の祝先生、兼松先生から指導を受けながら、営業一課・営業二課・交流課・広報課に分かれて体験交流センターの活動を企画・運営しています。

【広報課長】
水落百萌さん(3年生)
交流センター新聞を月1回発行することで、パソコンの操作技術が向上しました。

【営業一課長】
富井秀侑さん(3年生)
初対面の人と話しをするスキルが身に付きました。

【交流課長】
高橋明可音さん(3年生)
主にボランティア派遣の調整などを通して、電話の受け答えを学びました。

【事務局長/営業二課長】
横尾莉紗さん(3年生)
名刺の渡し方などビジネスマナーを習得しました。

9月16日に開催された「めっかめっか」の情報誌作成を2年生6人が担当し、感謝状をいただきました。また、プレゼン大会にもエントリーし、活動をアピールしました。



平成23年度に新潟県教育委員会からオンラインワンスクール・ステップアップ事業の指定を受け、事業がスタートしました。

交流センターに4つの課(役割)を備える事務局を設置し、地域イベントのボランティア派遣、早稲田大学との交流事業のほか、生徒の就業体験のために、受け入れ事業所の開拓や派遣調整などを生徒自らが実施しています。

今年8月に実施した就業体験には、製造業・販売業・福祉施設・博物館・情報館など約30事業所に延べ71人の生徒を派遣しました。

営業一課長の富井さんは、「受け入れ事業所への事前連絡も自分たちでするので、初めは驚かれましたが、皆さんとても好意的でした」と振り返ります。

11月中旬には、下級生から新メンバーを募集し、今年の反省点も踏まえてバトンタッチします。

新しいキャリア教育の形が、市内に広がっています。

活動を紹介したい団体を募集しています
ひとサポ ☎761-7444

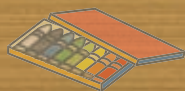
このとき
熱中&夢中
市民活動ネットワークひとサポが、旬な人・団体を紹介します。

68

まつだい高校生社会体験交流センター 生徒自身が就業体験交流事業を運営

社会体験交流センターは、県立松代高校(野澤恒夫校長)の生徒が自ら運営している団体です。昨年からは地域企業などの協力を得ながら、生徒の社会性やコミュニケーション能力・キャリア意識の形成などを目指して活動しています。

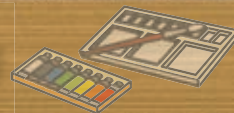
◆問合せ…新潟県立松代高等学校 ☎597-2064



ジュニア芸術祭

田沢小学校

101



だいすき めいちゃん
樋口 はなさん (1年)



生かつかでかっているやぎのめいちゃんです。なでると、気持ちよさそうなおをします。けがふさふさしているからだがじょうずにかけました。



赤いマントでかっこよく、ピンクのリボンでかわいくなるようにしました。花のリボンやふわふわした布をつたけところが気に入ります。



マントちゃん

樋口 はな 葉菜さん (2年)



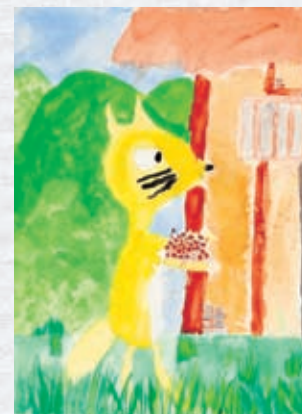
きょうりゅうのたたかい
樋口 正太さん (3年)



自分で考えたお話をかきました。きょうりゅうたちのはげしいたたかいです。たたかいの日には雨だったので、そのときの様子もくふうしました。



うなぎをにがしたつぐないに、ごんが兵十の家にくりをもつていつていっている絵です。家や草を何色も使って色をつけました。山は、遠くの色をつくしました。

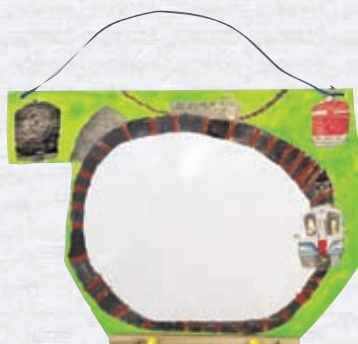


ごんのつぐない

井ノ川 あゆむ 歩さん (4年)



ほくほく線のホワイトボード
林 篤輝さん (5年)



ほくほく線のホワイトボードを作りました。ほくほく線、SLをかきました。列車が好きなので、このボードに旅行の予定を書きたいです。



7月になかさと交流で久米島に行ったときに作ったシーサーです。目は、ペンのキャップを使って模様をつけました。角やしっぽも工夫しました。



シーサー

吉樂 あかり 明莉さん (6年)

